

中津川市・大磯町・小諸市の姉妹都市提携の盟約並びに災害時相互応援協定の調印式にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日、藤村先生のご縁により、中津川市、大磯町、そして小諸市の二市一町が、藤村先生生誕の地、この馬籠において、先生が若き日に学んだ明治学院大学の関係者をはじめ多くの関係の皆様のご臨席のもと、姉妹都市提携の盟約並びに災害時相互応援協定をあらためて結ぶことができますことは、小諸市民の大きな喜びであります。

小諸なる古城のほとり雲白く遊子悲しむ

小諸の情景を詩情豊かに謳い上げた藤村先生の「千曲川旅情のうた」。この一節が多くの旅人を小諸に惹き寄せ、今の小諸を創っているといっても過言ではないと思います。そして、このうたの舞台となっていることを、小諸市民や小諸の出身者は大きな誇りとしております。

藤村先生は「千曲川のスケッチ」の序の中で、小諸義塾の教師として小諸に来られたときの心境を「もっと自分を新鮮に、そして簡素にすることはないか。」と綴り、教師として教鞭をとる一方で、小諸の人々からもいろいろなことを学んだと記しておられます。

先生が小諸で過ごした七年の間に、「千曲川のスケッチ」や「落梅集」が生まれ、そして近代小説の記念すべき作品「破戒」が起稿され、その原稿を携えて小諸を去られました。先生が詩歌から小説へと創作のスタイルを変えていったのは、一つには小諸の風土や人々との交流がきっかけだったのではないかと私は考えます。

本年は、奇しくも先生が小諸を去られてから100年になります。この新たな姉妹都市提携を契機に、芸術・文化、産業、行政などあらゆる分野において、市民・町民同士が相互に交流し、それぞれの地域文化の一層の向上を図ることこそが、藤村先生の偉業を後世に伝え、顕彰することにつながると思います。

これまでも増して、お互いの良いところを学び合い、協力し

合い、助け合い、そして時には競い合い、切磋琢磨しながら、中津川市、大磯町、小諸市の結びつきがより一層強く、豊かなものになり、それぞれの地域が発展していきますよう、お互いに頑張ろうではありませんか。

ここに、皆様との交流を積極的に進め、皆様が小諸にお出かけくださるときには最大限の歓迎をいたしますことをあらためてお誓い申し上げますとともに、今後の2市1町の相互交流にあたり、それぞれの市と町の皆様、そして明治学院大学をはじめ関係の皆様のご理解とご協力を心からお願いするものでございます。

終わりに、中津川市、大磯町並びに明治学院大学の今後益々のご発展と、ご参会の皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げますとともに、本日の調印式の準備等に大変なご尽力をいただきました中津川市の大山市長様をはじめ、関係の皆様方に感謝を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

平成17年11月15日

小諸市長 芹 澤 勤